校長室だより No.　３４ 平成 29 年 1 月 10 日(火)	強く　やさしく	六ツ美中部小学校校長 加　藤　嘉　一（かとう　よしかず）

新年にあたり　－今年に取り組む方向をもつ－

寒さも緩やかな早朝、薄群青色の空にぽつりとあった鳥の形の小さな雲は、山の端の赤みに気を取られていた隙に消えていました。やっと表れた日の光は、あっという間に空を群青から薄青色に変えていき、その光の強さは希望と大きな意思を表わしているかのようでした。2017 年元旦の静かな幕開けです。六ツ美中部小学校の子供たちが、穏やかに希望あふれる心で新年を迎えてくれたのなら、わたしたちの大変な幸せです。

2017 年を迎え、年頭にあたって以下のことを目標にしたいと考えました。

○六ツ美中部小学校の 2017 年（平成 29 年）を考える

六ツ美中部学区の地域の方々は子供を地域の宝とし、子供たちは、この方々にあたたかく愛に包まれて育っています。この風土は、間違いなくこれから先も大切にされ、受け継がれていく六ツ美中部学区の強みだとわたしは感じます。

子供たちの教育を担うわたしたちは、この強みである風土を常に教育を考えるときの中心に据え、目の前の子供の資質と能力をとらえ、地域で育ち地域を愛する子供を育てると同時に、知徳体について時代の流れを読み将来を見据えた教育改善に努めていかなければなりません。

全国の教育のもととなる学習指導要領が平成 29 年度に改訂され、この学習指導要領による授業が、小学校では平成 32 年度に完全実施されます。すでに、新しい学習指導要領の改善の方向性について、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」（文科省ＨＰ掲載）が平成 28 年 8 月末に発表されました。ですから、ある程度新しい教育の方向が見えてきています。（少し前にマスコミも取り上げていたことがあるので、御存知の方もいらっしゃるかと思いますが、前学習指導要領に使われていなかった「アクティブ・ラーニング」という言葉が少し話題となりました。しかし議論が進み、今回の「審議のまとめ」や最近の文科省が出すものでは、「主体的・対話的で深い学び」という言葉を前面

に出しているように思います）

近いうちに新しい学習指導要領の告示が予定されています。わたしたちは、この新しい教育の方向についての学習と、この六ツ美中部小学校の子供に必要な教育を、再構築していかなければなりません。

今回の「審議のまとめ」とその前年に出ていた「論点整理」から、①主体的・対話的で深い学び、②カリキュラム・マネジメントの２つについて、考えを明らかにしていかなければならい重要な柱ととらえています。

そこで、平成 32 年度を迎えるまでの３年間を見通し、平成 29 年度の目標を考えました。今後学校の中で検討していきたいと思います。また今年度の教育活動全般を総括し、来年度の教育を計画するときに、以下の視点を組み込んでいきたいと思っています。

【平成 29 年度】
① 子供のどういう姿が「主体的・対話的で深い学び」なのかの議論
② 本校が研究会以来積み上げてきた「ＥＳＤカレンダー」と教育課程全体の関係整理（カリキュラム・マネジメント）

【平成 30 年度】
① 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の仮説作りと授業研究
② 教育課程全体（日課・授業時間数・教科横断等）・指導計画のモデル作り

【平成 31 年度】
① 「主体的・対話的で深い学び」を具現化した授業研究
② 教育課程（日課・授業時間数・教科横断等）・指導計画の作成と試行

【平成 32 年度】新学習指導要領・新教育課程をもとにした授業の完全実施

○六ツ美中部小学校の 2016 年度（平成 28 年度）３学期を考える

次年度を含めた目標だけでなく、３学期も大切なまとめの時です。具体的に以下の点を大切にし、子供たちの成長を図りたいと思います。特に、「卒業」は子供たちの成長の機会です。全校の子供に意識させていきたいと思います。

◎今年度の子供の学力・体力・学び方の成長に責任を持つ
・学力テストの実施と総括、補充　・体力伸長の検証と体力づくりの継続
・学び方にかかわる「神様の耳」の検証、学校診断アンケートの総括

◎子供に次学年の役割の自覚と準備をさせ、意識の成長を図る

◎中部ならではの「卒業」を全校でつくる